

(別記)

## 2020年度氷川地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

平坦地区では、水稻を中心にい草やイチゴ・トマト等の施設園芸や露地野菜との複合経営が行われている。

しかしながら、農家の高齢化が進み農家戸数の減少が見られ、主食用米の需要が減少する中、不作付地の拡大が進んでいるので、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

中でも、い草、トマト、イチゴの生産量は県内でも高く、特にい草の生産においては、日本一の生産となっている。しかし、近年、和紙等の科学表、中国産等の外国産い製品の輸入が急増し、加えて住宅様式の変化により、冬作物の中心であったい草が減少傾向にあり、冬期の土地利用率が減少している。

### 2 作物ごとの取組方針等

当地域内の約1,300haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

特に、麦、いぐさ、野菜を転作作物の主体として位置付け、生産コストの効率化等に取り組ながら、魅力ある産地づくりを推進する。

#### (1) 主食用米

近年、「ヒノヒカリ等」で問題となっている夏期の高温による品質低下を回避するため、高温耐性品種「くまさんの力」の普及を推進し、収量の確保と品質を改善する。

また、もち米生産団地として、「ヒヨクモチ」での安定的な収量を確保するため適切な肥培管理を励行し、高品質栽培を行い地域のブランド力を高め有利販売を図る。

また、生産数量目安を最大限に活用し、需要に応じた米の作付推進を図り米価格の安定化を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

現在、作付が少ない状況にあるが、国からの産地交付金を活用した複数年契約を推進し、安定的な生産・供給体制を構築していく。

また、産地交付金を活用して、耕畜連携（資源循環）の推進する。

##### イ WCS用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、WCS用稲については、産地交付金を活用して、耕種農家と畜産農家との連携による資源循環の取組を推進し水田から良質の粗飼料生産を行い畜産農家のコスト低減を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦を安定的に生産するためには、排水性等が良好な圃場での栽培を励行し、明渠（額縁・排水溝）や暗渠（サブソイラー等）の施工等による生産性向上の取組を推進しながら、適切な肥培管理作業（麦踏みや追肥等）を行うことで、収量性を向上させ高品質麦栽培を行い麦の作付面積を維持・拡大する。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家の連携による資源循環の取組を支援することで水田から良質の粗飼料生産（イタリアライグラスや夏牧草等）の安定生産を推進し、現行の作付面積の維持・拡大を図る。

また、産地交付金を活用して、二毛作及び担い手による麦・大豆の農地集積を推進し、生産性の向上を図る。

(4) そば、なたね

現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

産地交付金における施設・露地野菜及び花き、花木、果樹への支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。

特に、トマトといちご等の施設園芸については、省エネルギー化や生産コストの削減、災害に強い耐候性施設整備等の整備充実、作業時間の短縮、経営の合理化に努める。

また、トマトといちごを野菜の重点品目に設定し産地交付金で支援を行うことで作付面積の拡大を図る。

露地野菜については、新規導入作物の検討を行い、計画的作付体系による産地確立や生産技術の向上を図り、産地化へ向けた振興に努める。

(6) いぐさ

い草を重点品目に設定し産地交付金で支援を行うことで、産地を維持する。

また、県育成優良品種を導入拡大することで、多収・高品質な畳表を生産し、高収益な加工・畳表を目指す。

(7) 畑地化の推進

地域特産の果樹（晩白柚・デコポン等）での、畑地化の推進を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	2020年度の 作付目標予定面積 (ha)	2021年度の 作付目標予定面積 (ha)
主食用米	474 2,689t	461 2,522t	420 2,285t	450 2,462t
飼料用米	7.3	8.3	10	10
米粉用米	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0
WCS用稲	498	499	478	499
加工用米	2.0	3.7	0	5.0
備蓄米	0	0	0	0
麦	109	103	118	118
大豆	0.01	0.01	0.24	0.01
飼料作物	177	185	155	185
そば	0	0	0	0
なたね	1.3	2.0	3.0	3.0
その他地域振興作物	143	143	157	157
野菜				
・いちご	47	47	55	55
・トマト	19	19	22	22
・その他野菜	77	77	80	80
いぐさ	51	51	54	54
花き・花木	6.3	6.1	7	7.0
果樹	1.3	0.9	1.4	0.9
その他	17	18	20	20

※主食用米の作付予定面積（2020年度）、目標値（2021年度）において使用した単収は

547kg/10a

※主食用米の2020年度作付目標値において使用した単収は544kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績） （2019年度）	目標値 （2020年度）
1	いぐさ（苗を含む）	重点品目（いぐさ） 助成（基幹）	作付面積の維持	5.1 ha	5.4 ha
2	いちご、 その他（いちご種苗）	重点品目（いちご） 助成（基幹）	作付面積の拡大	59.02 ha	6.3 ha
3	トマト、 その他（トマト種苗）	重点品目（トマト） 助成（基幹）	作付面積の拡大	18.96 ha	2.2 ha
4	野菜、花き・花木、 果樹、その他（たばこ）	高収益作物野菜等の 助成（基幹）	作付面積の拡大	72.32 ha	88.4 ha
5	WCS用稲、飼料作物、 飼料用米	資源循環の取組 （耕畜連携：基幹・二 毛作）	取組面積の拡大	460.9 ha	(415 ha) 480 ha
			取組割合	98.7%	(86.75%) 95.0%
6	麦・加工用米・飼料作物	担い手二毛作助成 （二毛作）	作付面積の拡大	279.18 ha	(270 ha) 280 ha
			水田利用率	113.10%	112.54%

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）